

コンクリート・モルタル・ALC等外壁面の塗替え塗装仕様

G-1 アクリル樹脂系単層弾性仕上げ塗材 3回塗り

G-2 シリコン樹脂系単層弾性仕上げ塗材 3回塗り

工 程	塗 料 名	塗 回 数	標準塗付量 (kg/m ² /回)	塗り重ね 乾燥時間 (20℃)	希釈剤 希釈率 (%)	塗装方法
下地調整	既存塗膜に浮き・ふくれ・脆弱な部分がある場合は、ディスクサンダー・スクレーパー研磨紙等を用いて除去する。 チョーキング・汚れ・著しいかび・藻・劣化塗膜などを高圧水洗で除去する。 部分除去又は全面除去した部分はセメントフィラーで素地の修復を行う。					
下塗り	アクリル樹脂系単層弾性仕上げ塗材用 シーラー	1	0.12～0.16	3時間以上	水道水 0～5	ウールローラー 吹き付け
	シリコン樹脂系単層弾性仕上げ塗材用 シーラー					
中塗り	アクリル樹脂系単層弾性仕上げ塗材	1	0.80～1.00	3時間以上	水道水 1～3	砂骨ローラー
	シリコン樹脂系単層弾性仕上げ塗材					
上塗り	アクリル樹脂系単層弾性仕上げ塗材	1	0.20～0.40	—	水道水 10～15	ウールローラー
	シリコン樹脂系単層弾性仕上げ塗材					

上記の各数値はすべて標準のもので、施工方法・施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがある。

G-3 アクリル樹脂系非水分散形塗料(艶消し) 2回塗り

工 程	塗 料 名	塗 回 数	標準塗付量 (kg/m ² /回)	塗り重ね 乾燥時間 (20℃)	希釈剤 希釈率 (%)	塗装方法
下地調整	既存塗膜に浮き・ふくれ・脆弱な部分がある場合は、ディスクサンダー・スクレーパー研磨紙等を用いて除去する。 チョーキング・汚れ・著しいかび・藻・劣化塗膜などを高圧水洗で除去する。 部分除去又は全面除去した部分はセメントフィラーで素地の修復を行う。					
下塗り	アクリル樹脂系非水分散形塗料 (艶消し)	1	0.10～0.15	2時間以上	塗料用シンナー 10～20	はけ ウールローラー
上塗り	アクリル樹脂系非水分散形塗料 (艶消し)	1	0.10～0.15	—	塗料用シンナー 10～20	はけ ウールローラー

上記の各数値はすべて標準のもので、施工方法・施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがある。

G-4 1液形水系アクリル樹脂塗料 3回塗り

G-5 1液形水系ポリウレタン樹脂塗料 3回塗り

G-6 1液形水系シリコン樹脂塗料 3回塗り

工 程	塗 料 名	塗 回 数	標 準 塗 付 量 (kg/m ² /回)	塗 り 重 ね 乾 燥 時 間 (20℃)	希 積 剤 希 積 率 (%)	塗 装 方 法
下地調整	既存塗膜に浮き・ふくれ・脆弱な部分がある場合は、ディスクサンダー・スクレーパー研磨紙等を用いて除去する。 チョーキング・汚れ・著しいかび・藻・劣化塗膜などを高圧水洗で除去する。 部分除去又は全面除去した部分はセメントフィラーで素地の修復を行う。					
下塗り	1液形水系シーラー	1	0.10～0.16	2時間以上	水道水 0～5	はけ ウールローラー
	水系微弾性フィラー	1	0.30～1.3	3時間以上	水道水 0～10	砂骨ローラー ウールローラー
上塗り	1液形水系アクリル樹脂塗料	2	0.12～0.16	2時間以上	水道水 0～10	はけ ウールローラー
	1液形水系ポリウレタン樹脂塗料					
	1液形水系シリコン樹脂塗料					

- 注 1. 下塗りの種類の選定は旧塗膜の種類、劣化程度等により選定し、塗料メーカーの特記による。
2. 上記の各数値はすべて標準のもので、施工方法・施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがある。

G-7 2液形弱溶剤系ポリウレタン樹脂塗料 3回塗り

工 程	塗 料 名	塗 回 数	標 準 塗 付 量 (kg/m ² /回)	塗 り 重 ね 乾 燥 時 間 (20℃)	希 積 剤 希 積 率 (%)	塗 装 方 法
下地調整	既存塗膜に浮き・ふくれ・脆弱な部分がある場合は、ディスクサンダー・スクレーパー研磨紙等を用いて除去する。 チョーキング・汚れ・著しいかび・藻・劣化塗膜などを高圧水洗で除去する。 部分除去又は全面除去した部分はセメントフィラーで素地の修復を行う。					
下塗り	水系微弾性フィラー	1	0.30～1.3	3時間以上	水道水 0～5	砂骨ローラー ウールローラー
	1液形溶剤系シーラー	1	0.12～0.16	1時間以上	専用シーナー 0～10	はけ ウールローラー
上塗り	2液形弱溶剤系ポリウレタン樹脂塗料	2	0.12～0.16	2時間以上	塗料用シーナー 5～10	はけ ウールローラー

- 注 1. 下塗りの種類の選定は旧塗膜の種類、劣化程度等により選定し、塗料メーカーの特記による。
2. 上記の各数値はすべて標準のもので、施工方法・施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがある。

G-8 外装薄塗材E（砂壁状仕上げ） 2回塗り

工 程	塗 料 名	塗 回 数	標準塗付量 (kg/m ² /回)	塗り重ね 乾燥時間 (20℃)	希釈剤 希釈率 (%)	塗装方法
下地調整	既存塗膜に浮き・ふくれ・脆弱な部分がある場合は、ディスクサンダー・スクレーパー研磨紙等を用いて除去する。 チョーキング・汚れ・著しいかび・藻・劣化塗膜などを高圧水洗で除去する。 部分除去又は全面除去した部分はセメントフィラーで素地の修復を行う。					
下塗り	1液形水系シーラー	1	0.10～0.16	2時間以上	水道水 0～5	はけ ウールローラー
上塗り	砂壁状仕上げ材（リシン）	1 ∪ 2	1.10～1.60	—	水道水 10～20	吹付け

上記の各数値はすべて標準のもので、施工方法・施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがある。

工法

- i 巣穴、段差などがある場合、合成樹脂エマルジョン入りセメント系下地調整材で処理する。
- ii 単層弾性機能は、塗付量によって異なるので、所定の塗付量を塗装する。
- iii 単層弾性中塗りは、砂骨ローラーでくばり塗りを行い、次いでならし塗りした後、下から上へ模様むらの生じないように行なう。
- iv 仕上げ模様は、施工時の温度、希釈率、塗付量などによって異なるので、あらかじめ試し塗りを行い条件を設定する。
- v 下塗りの水系微弾性フィラーの微弾性機能は、塗付量によって異なるので、所定の塗付量を塗装する。
- vi 下塗り水系微弾性フィラーは砂骨ローラーでくばり塗りを行い、次いでならし塗りした後、下から上へ模様むらの生じないように行なう。

注意事項

- i 旧塗膜が弾性塗料および単層形弾性塗料で上塗りまたはベース塗り層に著しいふくれの発生している場合は再ふくれが発生する場合があるので、旧塗膜を完全に除去する。
- ii 塗装場所の気温が5℃以下、湿度が85%以上または換気が不十分で結露が考えられる場合は塗装を避ける。
- iii 外部の塗装中に降雨、降雪のおそれがある場合および強風時は塗装を避ける。
- iv 塗装時ならびに塗料の取り扱い時は、十分に換気を行い火気厳禁にする。
- v 吹付けの場合は、飛散防止のための養生を行う。建物の形状や施工部位、周辺の環境によっては飛散ダストによる汚れを生じることがあるため注意が必要。
- vi 製品の安全に関する詳細な内容が必要な時には、製品安全データシート（MSDS）を参照する。